

「セミの抜け殻調査会 in 小石川」の取材記事が8月4日の読売新聞夕刊に掲載されました。

セミの抜け殻を調べると、土壌中の環境の変化を探ることができる。抜け殻が腐ると、土中の微生物が活動し、土壌が豊かになります。セミの抜け殻は、分解されて比較的簡単に肥料になります。土壌中の微生物は、セミの抜け殻を分解して、土壌中の栄養分を吸収することができます。東京都内で調べた調査、随行してました。

小学生が調査

東京都文京区の小石川植物園は、東京市庁舎の約3.5倍の面積があり、約100種以上の植物が栽培されています。この植物園では、毎年夏に行われる「セミの抜け殻調査会」が行われ、区内の小中学生が参加しています。

調査を呼びかけたのは文京区の市民たちで作る「環境ネットワーク文京」です。また、お父さんお母さん、お兄さんお姉さん、お友達と一緒に参加して、日本自然保護協会が主催する「セミの抜け殻調査会」に参加し、区内の小中学生が参加しています。

「採集時は、そのままとって下さい。足や指が取れてしまうと、セミの種類の見分けが難しくなってしまう。指輪の着用を控えてください。また、虫に刺されたら、すぐに医師に相談してください。セミの抜け殻は、土壌中の微生物が分解して、土壌中の栄養分を吸収することができます。東京都内で調べた調査、随行してました。

セミの抜け殻で環境変化探る



いろいろな種類のセミの成虫や抜け殻

さて、大きさは様々でなく、脚の形にも違いがあるのがわかります。その結果、ニイニイセミの抜け殻が半分以上あり、アブラセミが約4割、ミンセミが約2割と判明しました。

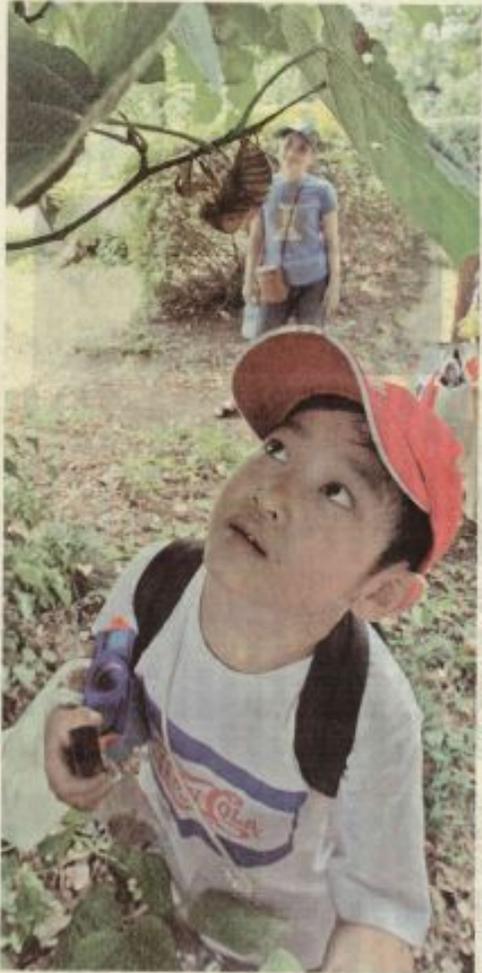
全国に33種類

とあって、セミの成虫ではなく、抜け殻を調査するのは、こうしたことが、明らかにされています。

【世の中探検隊】



集めたセミの抜け殻を分類する参加者たち



森の奥で目撃したセミの抜け殻

※写真は、いずれも、7月28日、東京・文京区の小石川植物園で一日正観撮影



お土産に持ち帰ったセミの抜け殻

読売ウィークリーと自然保護協会、インターネットの子ども向けサイト「キッズゼロ」(NTTレゾナント)は共同で、「自然しらべ2007 夏休み・セミの抜け殻を採集！」を行っています。

全国の小学校4～6年生が主な対象で、見つけたセミの抜け殻をデジタルカメラで撮影して、その画像と見つけた場所、セミの種類などを「キッズゼロ」(http://asmi.kids.goo.ne.jp/)の投稿ページに入力してもらいます。すると、全国の参加者が集めたデータが日本地図上に示される仕組みです。

君も「抜け殻写真」をアップ HPで全国データ化

サイトにはセミの種類の見分け方の表、セミに関する豆知識などもあり、夏休みの自由研究に活用することもできます。抜け殻の届期も受け付けていて、同協会(〒104-0033 東京都中央区新富1-1の16)の10ミトヨビル2F、電話3・3553・4105)に郵送すれば専門家が分析してくれます。必ず同協会が配布している調査票をつけてください。「キッズゼロ」のサイトからもダウンロードできます。読売ウィークリーや読売新聞では、夏休み中に中間報告を掲載します。